

独立歩兵第六大隊要

年月日	概 要
昭和五七	<p>軍令陸甲第一号に依り独立混成第一旅団独立歩兵第六大隊を編成 大隊本部及四中队 編成場所 中華民国安徽省鳳陽県蚌埠 編成当時の大隊長 陸軍中佐 芳村 寛 司 編成当時の部隊の駐屯地 中華民国安徽省鳳陽県蚌埠 警備行動の概要 大隊主力は蚌埠に位置し鳳陽地区及津浦鉄道の警備に任ずると共に第二中 隊を淮南に分遣せしめ淮南共抗面警備に任せしむ。</p>

(192)

0818

2181

昭五、四一〇

旅団の実施せる寿县城攻略戦に参加四月十二日寿县城白領石主力を以て同県城の警備治安肅正に任じ約五月の迄同地に第二中隊を残留同地の警備に在せしめ主力は蚌埠に復帰し前任務を続行す

八一五

大隊長更迭

陸軍中佐 佐藤 春雄

天三〇〇

軍の実施せる淮南作戦に参加

作戦に引続き三月中旬蚌埠地区の警備を独歩五九六大隊に引継ぎ大隊は寿県地区に転戦主力を吳山届に置き吳山爲西路山岡土山の線に亘る陣地構築を実施すると共に一部を以て淮南鉄道の警備に任ず同淮南作戦に於て長沢一善兵衛田代生一善兵衛死不明となる

五七

合肥原長崗迄に在る敵は我の陣地構築を辱み妨害するを以て大隊は該敵を攻撃すべく行動を開始す

我に敵倍せる敵は頑強に抵抗す折柄の悪天候の爲我は苦戦に陥り大々余名の戦死者と後方運送のため激進せる乗馬伝令山路上善兵衛田一善兵衛の生死

(93)

2182

六七中甸

二二七

昭七四

六中甸

六三

不附着を出せり。

陣地構築完了せるを以て大隊主力は寿泉下橋梁に駐紮寿泉及合肥泉地区の警備准南鉄道の警備に在す。

寿泉下橋梁鉄家泉西方四井鉄線附近の警備に任じたりし方四中隊の一部大久保小隊は敵の急襲を受け奮戦力尽するも我に救済せる敵は頑強に抵抗我は大半傷き佐藤一將兵亦傷つき遂に敵手に落ち生死不明とまかり。

治安圏の拡大の爲合肥泉李山嶺に陣地を推進しありしが敵は之を奪回せんと尋に攻襲し来る同年六月隔々敵は我が陣地を包圍攻取李山嶺警備隊は糧秣缺乏苦戦中の報に依り大隊は主力を以て之が急襲のため六月一日行動開始敵を攻撃す。

激戦の中に在りて指揮奮戦中の大隊長佐藤大佐は壮烈なる戦死を遂ぐ候任大隊長着任す。

陸軍中佐 三沢金夫

(194)

昭三、七、二
八、七

季山廟附近戦役作戦

敵は依然季山廟奪還せんと我が陣地周辺に陣地を構築し大部隊を以て包圍しあり、

大隊は該敵を徹底的に攻撃斃滅せんと

行動開始石作戦を実施す、

敵戦の後遂に敵を四散駆走せしめたり

我も亦一中隊長戸坂中尉ヲ田中隊長百賀中尉以下四〇余名の戦死者を出現せり、

八、五、三九

軍令陸甲ヲ三六号在支那部隊臨時編成、(編制改正) 復帰(復員) 要領に依り改編下令

七、一〇

編成完了

ヲ六五師団歩兵ヲ七二旅団独立歩兵ヲ六〇大隊、大隊本部一級中隊五ヶ中

隊 杉野純 歩兵砲中隊

改編当時の大隊長

陸軍中佐

三 沢 金 夫

(135)

2184

昭不ヤニ七

八三

一六八
九一ニ

一九三
五

警備行動

編成完結と共に、現駐のため下塘集出發

江蘇省淮陰県淮陰着、淮陰、淮安泗陽連水界地区の警備治安肅正に任す。

に至る間旅団の實施せる大堰河河畔の作戦に引継ぎ大隊は淮陰県徐家溜石

集、下塘尚橋等に陣地を推進淮陰北方地区の治安圏の拡大に努む

ヨリヨリ淮陰県車橋鎮警備隊は敵約三〇〇の包圍攻撃を受け苦戦中の報に

接し淮陰部隊の全力を以て之か急援のため車橋鎮に向い急進す。

一六三ヨリ韓庄附近に至るや不意に敵の攻撃を受け交戦するも敵は漸々兵力

を増強し全く我を圍せり。

大隊長三沢大佐は一先少戦斗を打切り後向を利用し敵隊を攻撃一帯に車橋

鎮に前進すべく意を決し二一〇〇一斉に韓庄方面の部隊に対し突撃を敢行

するも「クリーク」のため前進を阻止せり火噴後にして突撃意の如くなり

か遂に混戦となり指揮奮戦中の大隊長三沢大佐は壯烈なる戦死を遂ぐ

(196)

昭五三一九

同战斗中於て大岡銃中隊長金丸中尉以下十九名戦死日向少尉以下一四名は
生死不明となり、

右に伴り敵団主力の増援を得て車橋鎮警備隊は救出し得たり、

後任大隊長着任す

陸軍少佐 南波 留八

師団の淮陰地区剿共作戦実施

師団は前項敵情に鑑み淮陰地区の兵卒隊に対し淮海省東南部剿共作戦を

三、二
四、二に亘り実施す。

大隊は師団の予備として鉄の竈備砲臺の態勢に在りて駐屯地附近の警備に在
りありしか大隊長着任と共に一部兵力を抽出之を兼轄歩兵に中隊機関銃一
小隊を編成師団の別動部隊となり主として淮陰北方杞区掃蕩戦を実施す目
三〇日本作戦を終了す。

行動

(171)

2186

三五	昭 三二 三四 三五	一三 二二 三三	八 一 九	六 一 二	五 一 一	四 一 七			
<p>師田命令に基き新に突志泉の整備を担当せしめられ淮安整備隊長 陸軍中尉 長谷川恒雄以下六名を派遣同地の整備に任じしむ</p>	<p>警備地区拡充</p>	<p>軍の実施する淮河啓開作戦に呼応する陽動作戦に参加</p>	<p>の作戦</p>	<p>師田命令に基き陸軍駐屯要隊の爲の大隊主力を以て庫木東北近江村附近</p>	<p>淮安、加陽大陸河兩側の補正討伐及同運河北側自動車道整備兼完収</p>	<p>淮安県下平橋経河鎮附近及大運河兩地一區補正討伐</p>	<p>淮陰西面地区和平陣地の推進槍後並補正討伐</p>	<p>淮陰南部王大務武墩附近の陣地の推進補正討伐</p>	<p>尔后大隊は概ね現設備を堅持し主として治安圏の拡大強化に努めると共に 一部の兵力を抽出し淮陰県城に移動部隊を常備し居残る副共隊動作戦を 実施し敵の蠢動を完封せり之が主なる作戦行動次の如し</p>

(198)

日本書紀

六一〇

前坂の警備地区の松元に伴う桂安原の警備を歩兵一小隊とし大隊長酒巻となす

全隊の状況より至志の警備を杉原小村以下四日名とし中隊長長谷川中村を准安に復帰せしめ同地の警備を旧に復せしむ

七里溝附近の戦斗

夜敵約三〇〇は至志東北方大井和平軍陣を包圍攻撃中との情報により之が状況偵察の爲杉原小村以下三七名出動途中七里溝附近に墜するや敵約七〇〇の急襲を受け全員奮闘するも小隊長藤原少村杉原幸雄以下一七名戦死生死不明者十二名の損害を出せり

大隊長は崖上にあり右情報に接するや抽出し得る大隊の全兵力を至志に集結し白入三至八百に亘り至志附近の大討伐を實施し多大の戦果を挙げたり

終戦及部隊の集約

(177)

2188

昭五六一五

詔勅を拜し尔后松田命令に基き遂次兵力を淮陰に兵力を淮陰に集結し警備
徴収の準備をなす其の概況次の如し

八一七

長谷川中尉をして宝志警備隊を淮安に集結せしむ

八一九

石川中尉をして泗陽警備隊を徴収淮陰に集結

八二〇

西谷川中尉をして淮安警備隊を徴収淮陰に集結

リ

淮陰在留邦人を警備隊に徴収

陣水は依然警備を履行せしめ大敵の海州進出を警戒せしむ

以上の如く各部隊共大なる戦いを惹起せしむること早く平静裡に集結を完

了命令一下淮の警備を固軍力二十八師長に授けしむるの態勢を完了せり

淮陰警備の徴収

松田命令を受領し計画せる如く

八一七

一七〇〇の淮陰隊長及固軍力二十八師長を警備本部に招致し皇軍の淮陰徴収の止

むを解する状況を説明し至極平静裡に警備移設を完了す

中支外 文

(200)

昭三六三一	八三二 八三二	<p>一四〇〇主部隊は行軍を以て長谷川中村以下を經由し王宮鎮より塩田河を 航行せしめ斯くして兩隊互に連繫し漕水に向い前進す 漕水警備を徹し中隊長今井中尉以下を擧げし南新交鎖に至る 海州に送出す</p>
昭三六三二	七二九 八二五	<p>徐州警備 徐州固圉の敵情悪化に伴い師團命令に基き大隊主力へ二中隊欠くを以て徐 州地区警備の爲</p>
八二六	<p>徐州警備の任を解かれ八月二七日徐州出発 同日海州警備任務に復帰す 終戦業務及復員特代</p>	<p>海州出張列車及徒歩行軍に依り 徐州着同時に歩兵七十七旅田原の指揮下に入り に亘り徐州警備に在り</p>
<p>徐州警備の任を解かれ八月二七日徐州出発 同日海州警備任務に復帰す 終戦業務及復員特代</p>	<p>徐州警備の任を解かれ八月二七日徐州出発 同日海州警備任務に復帰す 終戦業務及復員特代</p>	<p>徐州警備の任を解かれ八月二七日徐州出発 同日海州警備任務に復帰す 終戦業務及復員特代</p>

(201)

2190

昭三、一、一五
昭三、一、三〇

昭三、一、二一

昭三、三、一八

昭三、四、四

團は此の消滅を、清況悪化に伴い討伐作戦を実施す。之が為大隊も亦其の部
度旅戦に参加す特に

に亘り第一三六大隊の北新安鎮整備隊救出に出動し敵の準備せる陣地に対
し猛攻を實施し併せて以下敵死、負傷七名を計せり

右作戦終了と共に、硬溝に集結を命ぜられ遂に左大隊の試験解除を受け不
東迄に新監同地に在り復員を準備す

乘船地集結及乗船

乘船地集結の為、塩濱地区に移動し更に同月三月三十日、塩雲に集結翌三十一日
一四〇〇名、LST 四、〇一〇号に乘船同一六〇〇名、連雲港出帆乗船人員大隊長以
下一〇四名、六五師団輜重隊長久恒大尉以下二二三名

上陸及復員

一六〇〇名、全員乗船なく在り保送に上陸
同日復員式挙行

昭三、四、三

昭和三

業務整理

大隊長南波少佐

大隊本部書記

天野

曹長は業務整理の爲福岡県筑紫

郡二日市町又那波遺軍復員本部に在りて業務整理に從事し

完了同日召集解除となる。

復員完結

(203)

2192

独立歩兵中隊三四大隊要

部隊長 陸軍大尉 藤本仁一

年月日	略
戦	<p>要</p> <p>昭六 軍令陸甲中三六号により独立混成中隊（浙江省諸營一隊安華）は編成改 正を命ぜらる。当時当部隊の編成基幹を成し独立混成中隊歩兵中一大隊 は中六十師団に所属江蘇省海門県啓東鎮の第一團清鄉工作に從事中昭五十八 年七月一日歩兵中四連隊補充隊長陸軍中佐松川世と初代大隊長として迎 へ編成を完結す。</p> <p>編成の概要左の如し</p> <p>本中隊小銃五中隊、輕肉銃一中隊（昭八）歩兵砲一中隊（昭三）編成定 員、將校四三、准士官一三〇、兵一七六</p> <p>行動の概要</p>

(208)

2193

三一九一 三二一四	八三〇	八四一五 八一四	四一三〇 四一六	一三三〇 四一六	一三三七 一三三七	五二一四 三三三七	六四 三〇八七	五四一九 五二一八	五七七一〇 五四二二
淮海省東海縣海州に移駐し海州周辺の整備に從事	淮海省淮陰縣連水附近廟正対仗に從事	淮海省東海縣南陳附近に於て老号作戦準備の陣地構築に從事	部隊変更せる	淮海省淮陰縣連水附近廟正対仗に從事	淮海省東海縣南陳附近に於て老号作戦準備の陣地構築に從事	淮海省蒼原縣輔順方面掃蕩正に從事	國府力二軍の塩埭地区陸駐支援作戦に從事	淮海省沐陽縣派隊に在りて整備に從事	京英作戦に參加

(205)

2194

昭三、六一四

中国軍に整備を引継ぎ全年一月二十六日兵器其他の引継完了
海州出発 四月十三日連雲港出発 四月十九日佐世保上陸す

兵力

内地除隊召集解除者

一〇、六一名

現地

〃

六三〇

参 道 者

二名

入 席 者

七一〇名

生 死 不 明 者

一八名

死 者

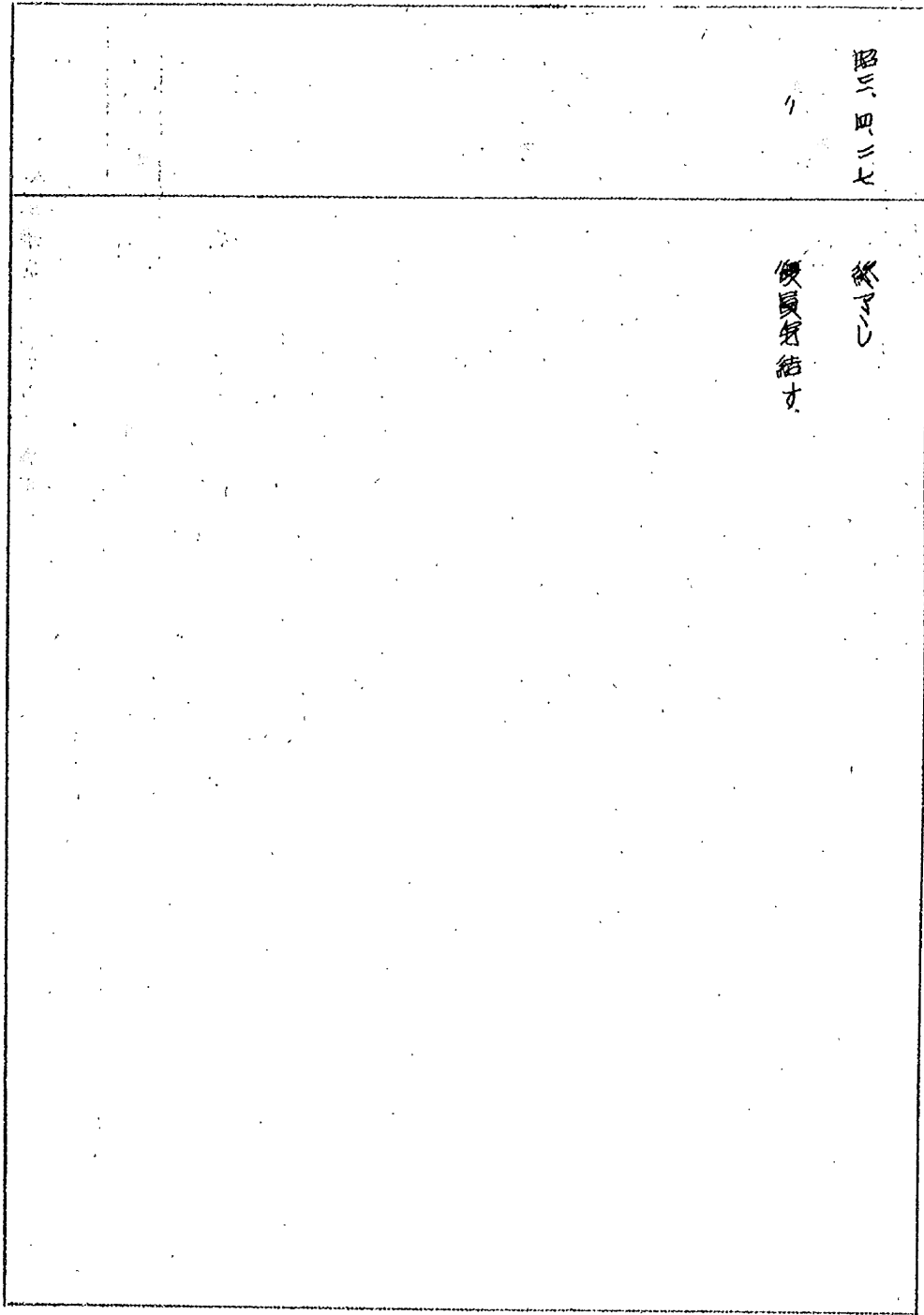
一一〇名

福岡県筑紫郡二日市町

支那派遣軍九卅連隊所に於て業務整理を實施す

(205)

2195



西三田ニ七

便長宛結す

終マシ

(207)

2196

独立歩兵中隊三五大隊署丁

陸軍大尉 高橋 剛

年月日	要
昭六 三、一九	<p>部隊名 独立歩兵中隊三五大隊</p> <p>武隊長官氏名 陸軍中佐 竹下 清 文</p> <p>陸軍大尉 高橋 剛</p> <p>編成完結の状況 軍令陸甲オ三六号に依り船一八、七一〇 中華民国江蘇省蚌埠に於て編成を完結す。</p> <p>行 動 蚌埠に駐屯し附近の警備並に討伐に任ず。</p>
昭六 三、一九	
昭六 三、一九	
昭六 三、一九	
昭六 三、一九	

中支外 54

(208)

2197

日支外

昭六七二八 三三二〇	昭五三六 四二	三三三三 二二五	五二五 二二	昭二二六 二二一	三三三一	四一三 一九
中華民國江蘇省富饒に駐屯し附近の警備並に討伐に任ず	淮海省東南部剿共戦に参加す	中華民國江蘇省庫寧に駐屯し附近の警備討伐並に築城に任ず	南老 一号作戦に参加す	中華民國江蘇省灌漑に駐屯し附近の警備に任ず	兵器糧秣其の他の接収終了	同日内地帰還の爲連雲港に前途目的地に於て乗船待機す 乗船 在世俗に上陸す

大塚本部

中支力

歩兵五中隊 (自才) 中隊、至加五中隊)				
托蘭船中隊 (一中隊)				
歩兵砲中隊 (一中隊)				
兵力 (昭三、四、一九 現在)				
現在員				一〇六一名
入院患者				六二〇
生死不明者				八〇
死者				八九〇

(2/0)

2199

<p>独立歩兵第百三十六大隊 署丁</p>	<p>陸軍大尉 竹内正彦</p>
<p>年月日</p>	<p>概要</p> <p>部隊名 第六五師團歩兵第百七十三旅團独立歩兵第百三十六大隊 部隊長官氏名 首任 陸軍大佐 行基 昇一 一五、一三三四 少佐 鹿本 信 賢 二五、三四 大尉 竹内 正彦</p> <p>編成完結の状況 軍令陸甲第百三十六号在支那部隊臨時編成に依り独立混成第百二連隊歩兵第百三十六大隊を基幹とし中華民国安徽省合肥縣蘆井に於て編成を完結す。</p> <p>編成</p>

昭五、四、二七	<p>敵約五〇〇は高溝嶺和平軍陣地を包圍攻撃中この敵に接し大隊命令に基き竹内中村以下八二名へ分回(四四四)隊二連一)之が急攻の爲に六〇〇新</p>
昭六、二、一九	<p>吳二圩附近の戦斗</p>
昭六、八、四 五、六、二	<p>三笠宮殿下御台嶺 中華民国江蘇省東海県東海兵舎に御台嶺</p>
	<p>同地区の整備並に討伐に在す 整備尚主要事項左の如し</p>
	<p>東海 盛州地区整備を独歩五八大隊に授けし江蘇省東部地区に現駐一本部東海県</p>
	<p>江蘇省東部地区整備 自昭六、七、一〇 至同年七、一九 盛州地区整備に在す</p>
	<p>大隊本部一級中隊 五ヶ中隊 共闘独歩兵砲中隊 行動 盛州地区整備</p>

安嶽出陣途中突ニ所附近に於て優勢なる敵約一〇〇と體懸戦斗激烈化終に初期の目的を遂更し反敵せんとしたる際甲坂一善兵安藤二善兵藤崎三善兵の行方不明と戦死ニ負傷四を出せり。

京漢作戦参加

江蘇省東部地区警備を担歩五六大大隊に親護し部隊は東海に一部兵力（残留者）を残留し

昭五六一
七三二
京漢作戦に参加す

小濱懸庄附近の戦斗

昭五六一
七三二
敵は記念日を期し大新庄和平軍陣地を攻撃、和平軍は目下苦戦中との報に管崎小隊一連隊主力京漢作戦参加中残留敵に於て編成小隊長以下二七名一は彼歩五六大隊才田中隊に配属を命ぜらる和平軍急襲の爲出陣す大濱懸庄附近に於て管崎小隊は討伐隊主力との連絡を失し小濱懸庄附近に於て敵約六〇〇の包圍を受け大隊長以下一九名戦死三浦一善兵小野一善兵の生死不明者を出せり。

河南特別地区警備

大隊主力京漢作戦参加後鄭州へ反転し白一九、八一 至、八、二四河南特別地区（鄭州附近）警備に任ず

銅蘭地区剿匪戦参加

河南特別地区警備を弘兵団に授けし部隊主力徐州地区に復帰后歩兵才七一旅団長の指揮に入り、

昭五、九、二

九、八

銅蘭地区剿匪戦に参加す

江蘇省東部地区警備

一、九、九、一〇

部隊は再び江蘇省東部地区に復帰し歩兵五六大隊より警備を継承し

五、九、一〇

該地区の警備討伐に任ず

真老一号作戦参加

昭五、五、二

五、三

師団真老一号作戦に参加し滄安地区を攻めす

拓汪固迫掃蕩戦参加

并天以 51

昭三二六二

七三

云六一四

云八一四
三二一〇

云八二五

云九二

昭三二一八

旅団の石江用旭掃蕩隊に引続き大隊は我力を以て

石江宋江泉に陣地推進岩突地区拡大の爲の作戦を実施す

停戦詔書発布

東陸海線鉄道警備

中華民国江蘇省宿遷縣新安鎮に於て戦后東陸海線鉄道警備ニ任ず

復員下令

停戦協定締結

新安鎮鉄道警備隊收の爲の戦斗

旅団命令に依り新安鎮用旭東陸海線鉄道警備を撤し海州に集結を命ぜらる。

大隊は隔地警備隊たる炮車駅草橋駅各警備中隊より遂次收結せんとしたるも

敵約三万は炮車草橋各警備中隊を包圍攻撃す。大隊は主力を以て之か放出を

実施せんとしたるも師団命令に依る炮車草橋駅の各警備隊は中原大尉指揮

の下に師団直轄となる大隊は該警備隊を我陣と確固に戦進す。

(26)

2204

昭三、一三

炮車華橋各機備隊は正式に兵器を新四軍が八機隊に譲渡し海州に前進隊中野
等鎮に於て八機隊司令陶勇の命により平山中尉以下二八名留置に向い強制
的に連行せられ其の後の行動不明なり

内地帰還の出来結

中華民國江蘇省滬寧線海溝に乘結隊員を準備す

内地帰還

内地帰還の海大隊主力八四八名(共計銃歩兵砲中隊欠)連雲港出發

佐世保港に上陸同日復員完了

大隊隊員二名は
連雲港出發、佐世保港に上陸

同日復員完結

(26)

2205

第六五師田砲兵隊累丁

年月日	昭和七、一〇 昭言、田言より第六五師田司令部にて編成業務を突進中七月十日假編成
部隊名	第六五師田砲兵隊
部隊所在地	中華民国江蘇省東海県海州
部隊長官氏名	陸軍大尉 花谷 甫
編成人員	八一〇名 四中队
火砲及馬匹	山砲 十二門 野砲 三二〇挺

陸軍大尉 花谷 甫

昭三、八五	部隊行動
八三	<p>候補隊以来引続き編成業務実施中、完結寸前に終戦となり、尔后、六五師団一部として行役せり。</p>
九一	<p>終戦前に在り、これは東海地区に在りて整備勤務並に光号作戦準備特は陣地構築に従事す。</p>
九二	停戦詔書発布
百一〇	復員下令
二二、六七	<p>終戦後師団は中國側より徐海地区に集中を命ぜられ、部隊は除隊に集結す。</p>
三、二九	停戦協定締結
三九	<p>兵器馬匹を中口側より接收する。</p> <p>終戦後徐州地区に在り、終戦業務をなすべく、待代中内地帰還の正の徐州に出発す。</p>
	上海着揚行鎮西兵舎に於て東配待機
	上海港に於て東配

片多氏

三一〇

上海塔出帆

三一五

博多港上陸

五三九名隊員召集解除

部隊長以下二名支那放煙軍復員本部に於て残務整理

入隊者 三一名

死傷者 一二名

固有名称 加六五師田砲兵隊

編成年月日 再行七九九〇部隊花名簿

編成年月日 編成不完結

編成地 中華民國口江蘇省東海県海州

編成(編制改正)の概要

編成準備中終戦と戻る

編成年月日 現地に於て編成

月又小

昭三〇

昭三三九

昭三〇

昭三三

渡支当初駐屯地 徐州 海州

行 動

尔后終戦時まで海州地区に在りて警備勤務並に築城実施
終戦后徐州に集結復員準備

上海に復駐

上海出帆

博多港上陸

(220)

2209

第六十五師団通信隊累年

年月日	概要
昭六七、一〇 昭六七、二五 〇七、二七	<p>昭六年 軍令陸甲才三六号在支那部隊臨時編成（編成改正）復帰（復員）要領に依り中華民口安徽省合肥県廬州に於て独立混成才十三旅団通信隊を基幹とし編成完結</p> <p>通信隊長 陸軍大尉 前原正雄 副官 少尉 山田善義 才一中隊長 千坂義天 才二 寺前 塚</p> <p>詳せらる。</p> <p>整備地区交代の爲廬州地区通信網を才六十一師団に移譲廬州出發 江蘇省銅山県徐州着才十七師団輕裝甲軌道車隊跡に駐宿</p>

昭六八一八	<p>カ十七師田沼砲兵連隊兵營に移動駐屯す徐州受駐後師田隷下部隊の警備交代と共に之に追隨しつゝカ十七師田沼無線通信網を逐次継承しを以て迄了茲に淮海地区カ六五師田沼備通信網を完全承継該地区警備通信に任ず</p>
昭六九三〇 九三〇	<p>上記向治安維持の爲歩兵カ七十一旅団の實施せる豐碭作戦に小隊長の指揮する要線ニヶ分隊を配属参加せしむ</p>
六二二二 二二九	<p>上記向要線ニヶ分隊を師田沼通信網の指揮に入らしめ續輸方面師田討伐戦に参加せしむ</p>
六二二二 二二四	<p>カ一中隊長千坂義夫カ六五師田徐謀部附近戦線の爲陸軍中尉松村米明カ一中隊長に補せらる</p>
六二二三 二二〇	<p>旧カ十七師田工兵隊兵營に移動す</p>
五三	<p>警備地区（徐州、海州、連雲港、宿遷、淮陰、新安鎮を含む江蘇省北部一帯）を以て淮海を新設せる</p>

昭六〇八

(211)

2211

行方

五三六
四二六

上野向師團主力を以て実施せる。淮海省東南京副共戦に主力を参加通信連絡に任ず。

四一五
三二五

激進軍々実施せる京漢作戦の支作戦として実施せる穀水作戦に参加部隊主力を師團主力に配属上方前に出陣地上対空両通信連絡に任ず。

二一三
三三七

師團の孫軍移駐支援に協力の目的を以て淮海省東部に小隊長の指揮する兵線三ヶ分隊を激進歩兵ヲ七十二夜団長の指揮下に入りしめ後駐を援助すると共に一方

五二六
四一八

上野向有線中隊主力として東曉海線通信線へ徐州一連雲崗へ補修作業を実施之を完了す

一五
一五

上野向島東南方地区激進行場破壊討伐に兵線小隊長の指揮する兵線三ヶ分隊を参加せしむ。

四一〇

副官山田喜義ヲ六五師團砲隊勤務の爲陸軍少尉久我春勝副官に補せらる。

四二九

才一中隊長、板村恭明歩兵ヲ百二夜団司令官部仁憲相の爲陸軍中尉 秀田武雄

(221)

2212

昭三六一〇	オ一中隊長に補せらる。
三〇八一四	師団主力の東部淮海省（ノ） ^無 野駐に伴い部隊主力を淮海省東海県東海に移駐戦備促進をなすと共に魯下有線通信網の管轄整備東海地区築造作業に從事中の
六二	令、 傳感認書澳送せられ不右同地に在りて自任に任じありしか八月一八日復員下
六九	傳戦協定締結に伴い
六〇	徐卅に兵力を兼結すべく東海発
三、四八	徐卅着部隊全兵力を兼結し
四二天	聖旨を奉体終戦及復員業務に從事す
四二三	内地帰還の爲徐卅を出発
四二三	上海港を出帆
四二三	佐世保港上陸
四二三	復員式終了

昭三、五二

復員完結

兵力

除隊召兼解除者

三三七

入隊者

一七

生死不明

五

死亡者

二六

世系系

り

(223)

2214

第六五師團輜重隊要了

連隊長 久恒 漢 文

年月日	概
昭六七、一〇	軍令陸甲才三六号在支那部隊臨時編成（編制改正）復員（復帰）要領に據り中 支那陽原蚌埠に於て編成完結附表才一
昭六七、二九	蚌埠出發江蘇省東海縣海州に現駐爾送並に警備に任す
〃 〇、一九	海州出發 〃 銅山縣徐州に現駐爾送並に警備に任す
一二三、 一九	蕪湖方面師團討伐に參加
昭五、 四、四	淮海省東南部劉共戦に參加
〇、四、〇	大五師旅編才三七号に據り編制改正附表才二
〇、四、一九	徐州出發江蘇省東海縣東海に現駐爾送並に警備に任す
七、二三	東海出發江蘇省宿遷縣新安鎮に現駐警備並に警戒に任す

昭三九六

昭三三三一

四五

新交領出港終戦に伴い江蘇省東海県東海旅終戦業務並に内地帰還準備

本部及才四中隊四月二日才一、才二、才三中隊内地帰還の爲夫々煙囪港出帆四

月四日、本部及才四中隊

才一、才二、才三中隊夫々佐世保上陸各々上陸当日復員式終了（人員概九

附表才三）

昭三、四、一〇

才六五師團輜重隊長

久恒 廣 文

(225)

2216

第六五 師田野戦病院略

陸軍軍医少佐

若本正道

年月日

概

要

昭六七、一〇 昭一八 年軍令陸甲才三六号に依り、第百四師田才四戦病院を主幹とする、才六五

師田野戦病院は、広東省番禺県鎮南に於て編成完結す。病院長推廉軍医

少佐將校二二、下士官三二五名

八二九 中支線陸のため、黃浦港出帆

九三六 吳淞上陸

七、一〇 江蘇省徐州着、同地附近の整備

昭五三、六

四二 淮海戦東南部戦に主力参加

四一五 京漢作戦（漢水作戦）に主力参加

六一 江蘇省海州、同宿遷、同宿遷の三所に患者療養所を開設す。

預備の、才六五略

片支外

六二二	江蘇省海州着同地附近醫備並野戰病院開設
五六一四	傳戰詔書發布
八二五	復員下令
九二	傳戰協定締結
三三二五	内地帰還のため海州出發連受着
三三一	庫裏港出帆
四三	佐世保港上陸（帰還人員、病院長、岩本降医少佐 將校一二名、下士官二三四名、計二四六名）

第六五師田病馬敵 畧テ

陸軍獣医大尉 太田代 輝雄

年月日	
概 要	<p>昭和三六 四二</p> <p>昭和三七 一〇</p> <p>編成完結の状況</p> <p>第三四師田病馬敵に於テ第三四師捜索隊の一部及第三四師田病馬敵の一部兵力を以テ編成を完結シ七月二〇日江西省南昌出發七月二四日江蘇省徐州に到着カ六五師団長の指揮に入り尔来徐州に在リテ病馬の收容診療装束及獣医員技の補給獣医部関係の業務の教育指導に從事ス</p> <p>行 動</p> <p>淮海省東部共同作戦参加病馬の收容診療に任ず</p> <p>兵力傳授一名下士官二名 兵五名</p> <p>概略等し</p> <p>京漢(平水)作戦参加病馬の收容診療獣医費材の補給に任ず</p>

中支力 50

五七三 〇一〇	兵力將校三名 下士官八名 兵二四名 損耗有り
二〇八四	<p>カ六五師田病軍隊半部として當秋歐医中尉の指揮を以て（下士官五名 兵一六名）温州作戦に参加病軍の収容診療に任じ昭和二〇年二月二十八日軍令甲カ十八号により第五混成カ八九旅団病軍隊に転属</p> <p>損耗 戦死兵一名 戦傷兵一名</p>
一三〇	<p>停戦、形ニシテ、以辭徐井に於て弱身保養所を開設兵田弱身の保養に任ず</p>
三二七	<p>徐井中兵營に現駐級選準備に任ず</p>
二一〇	<p>内地級選の岸徐井出発</p>
三一一	<p>上海到着前待機</p>
三一四	<p>斷然艦カ一七二号に乗形上海港出帆</p> <p>博多港上陸 部隊の編成を解く、將校四名、下士官三名、兵二十七名</p>
計四三名	

(277)

2220

<p>年月日</p>	<p>第六九師団司令部 (昭三、六一〇) 署丁</p>
<p>概</p>	<p>要</p>
<p>昭三、三</p>	<p>第六九師団の編成を令せられ同年四月独立混成第一六旅団を基幹として左記の如し編成す。</p> <p>左記</p> <p>歩 隊</p> <p>第六九師団司令部</p> <p>歩兵第一九旅団司令部</p> <p>独立歩兵第一八二大隊</p> <p>独立歩兵第一八三大隊</p> <p>〃 第一八四〃</p> <p>〃 第一八五〃</p> <p>〃 第一八六〃</p> <p>山西省 (汾陽)</p>

(230)

2221

歩兵第六旅団司令部

歩兵第六旅団司令部

独立歩兵第百十八大隊

第百十九

第百二十

師団 通信 隊

工兵 隊

輜重 隊

野戦病院

病馬 隊

初代 師団長 陸軍中將 井上 貞衛

昭三十五

師団は編成を完結するや師団司令部を山西省臨汾に位置し冀魯地区の警備

治安確保に任ず。此の尙對晉汾陽東南才地区作戦並に十八番大行及十八秋大岳北地区作戦に参

加す。

内地

(強制)

(23/1)

2222

昭八・五

師団長交代

二代師田原

陸軍中将

三浦 忠次郎

五三

編成改正に着手し師田より兵力を抽出し 同年三月独立歩天才三旅団の編成を完結し該旅団と豫寧地区の警備を譲渡しオ三七師団の撤出に伴い山西省河東地区の警備を交代継承す

師団司令部は輝城に位置す

昭一九年四月軍令に依り 師田追善砲隊増加編成す

リ 五月より西北河南依戦に参加す

リニロ三月 一部の編成改正を完結し同年四月河東地区の警備をオ五旅立

警備隊に譲渡し師団司令部は

四七 山西省運城出発

四一四 江蘇省嘉定に到着し警備を「老」号作戦準備並に南翔、嘉危、羅石鎮

地区の警備治安確保に任す

中支四

い

い

(222)

2223

内地帰還時主力と分離し復員した一部の部隊の廠は首略す。

第六九師団司令部（昭三、六、五）

昭三、五、四

六〇〇上海沖三兵站出発

上海旧市政府に於て検査を了し一〇〇〇以上の兵士に乘船すべく命令を
受領す 同日一三〇〇 乗船を完了し一六〇〇上海港出帆す。

五二七

山口県仙崎に入港す同船中五〇〇名三三師団野戦病院に於いて天然痘患者一
名発生し二週間の船内隔離を命ぜられ隔離力防戒に専念す。

六一二

上陸せるも都合は依り仙崎野戦院に一泊す

六一三

一〇〇〇名より復員式を挙行す此、長門大尉以下九九名除隊召喚解除を命ぜら
る（四崎上野兵站大尉十四除隊す）主力は六月三日 一三〇〇仙崎東飛引
陣に依り帰隊す。

残る者三尉少佐以下三名、同列車にて二日市に前進す。

第六九師團步兵中隊九旅團司令部

旅团长 陸軍少将 伊集院清吾
 旅团长 陸軍少将

年月日	
統 要	<p>昭和二三 三二六 編字着手 軍令陸甲中八号に依り独立混成中隊一旅團復員並に第六九師團臨時編成下令</p> <p>四八 編成總結 編成起</p> <p>中華民國山西省汾陽県汾陽 旅团长 陸軍少将 若松平治</p> <p>晋西地区の警備 汾陽北方地区作戦参加</p> <p>晋西地区の警備</p>
七六八 九	<p>六六八 六六七 六六八</p>

七三〇	对晋汾陽東南方地区作戦参加
八一	故团长更迭 陸軍少将 本村千代太
九七三 六	晋西地区の警備
九〇七 五七	山西省臨泉同豆地区作戦参加
一〇〇〇 三	晋西地区の警備
二二五 四	晋西地区の警備
四四三 三	十八春大行作戦参加
九二四 〇	晋西地区の警備
九二〇 〇	十八秋大岳地区作戦参加
二二三 四	晋西地区の警備
九三二 二	段姓のため汾陽出發開始業務

昭五 三九	昭五 三八	七六	七六	六一 七五	六一	六一 四一 三	四六 三六	四三 五九	昭五 三六
旅団長更迭	陸軍大佐 伊黒清 啓	旅団長更迭	旅団長更迭	陸軍少将 政崎直人	引籠ぎ 西北対南作戦参加	河南省 灵宝界 官田附近の戦斗に於て 旅団長戦死	旅団長更迭	西北 河南作戦参加	河南省 靈宝界 官田附近の戦斗に於て 旅団長戦死
		陝界 嶺頭堡 守備	河南省 陝界 会 興 嶺 進 駐				河東 植地区の警備	嶺主 山西 岢嵐地区 瀋陽 作戦参加	山西省 解入 界着

(236)

2227

三九	引籠き阪堺橋頭堡行備
四一	
四二	転送のため会天焚出宛
六一三	蒲口屋燭
六一四	江蘇省嘉定縣嘉定着
四二四	鹽海道附近の守備
六二	
六一四	停戦詔書煥宛
六一五	復員下令
九二	停戦協定締結
昭三、一、一〇	内地帰還のため主力一一二名上海港出帆
一一三	佐世保上陸
一一八	内地帰還のため一〇三名上海港出帆
一一三	博多港上陸
	進士官一名 残務整理のため二日市町後援二名
	復員帰郷

事故者

1. 中支（上海）残留者

坂田長以下三名（将官の帰選認可せられたるため）

2. 右

残留者 佐々木曹長以下九名

（中口側留備）

3. 入院患者

兵四名

4. 入監者

下士官一名

5. 死

将官一 兵五 計二一名

6. 生死不明者等

合計 二八名